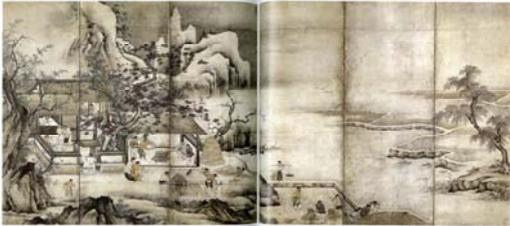


中項目	1 歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(1)-1 適時・適切な収集								
担当者	担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	列品管理課長 谷 豊信					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国民共有の貴重な財産として永く後世へ伝えられるべき、優れた作品7件（内、重要文化財2件）を購入した。</li> <li>・運営費交付金に加えて、寄付金800万円を得ることができ、計2億3,000万円を収蔵品購入にあてることができた。</li> </ul> <p>内訳：絵画1件（内、重文1件）、書跡1件、彫刻2件（内、重文1件） 漆工1件、染織2件</p> <p>決算額 2億3,000万円</p>								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要文化財「般若菩薩像」（絵画）は、独尊の画像であり、類例が知られていない貴重な資料である。色調も明るく、保存状態がよく展示効果も高い。</li> <li>・重要文化財「十二神将立像 申神」は京都の浄瑠璃寺伝来と伝えられる12軀の一つ。色調もよく残っており、展示効果が高い。</li> <li>・豊臣秀吉直筆の書状は、聚楽第普請に関わる内容であり、太閤記などで広く知られた人物も登場する。展示に供すれば観覧客の注目をあつめるものと期待される。</li> <li>・上記の書状は、寄付金によって購入することができた。寄付金による購入は、国の時代には、難しかったことであり、独立行政法人制度の特色を生かしたものである。</li> </ul> <div data-bbox="1098 772 1332 1198" style="text-align: center;"> </div> <p style="text-align: center;">購入品 重要文化財 般若菩薩像</p>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	収蔵品件数	112,529件	—	—		111,559	111,588	112,439	112,529
	うち国宝	87件	—	—		88	88	87	87
	うち重要文化財	622件	—	—		611	612	619	622
	購入件数	7件	—	—		29	10	13	7
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。 (東京国立博物館) 日本を中心にして広く東洋諸地域にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。								

中項目	1 歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
-----	---

事業名	(1)-1 適時・適切な収集							
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長 若杉準治				
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>博物館展示の活性化と高次の調査研究の対象となり、国民が文化の豊かさを実感することができる貴重な作品8件を購入した。</li> <li>購入に際しては中期目標にもあるとおり、「京都文化」を意識しているが、今年度は京狩野の絵画2件、京都の寺院及び旧家伝来の作品各1件、ゆかりのある作品1件を購入できた。</li> <li>内訳：絵画7件 染織1件</li> <li>決算額 1億4,515万円</li> </ul>							
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>明皇貴妃図屏風は、京狩野の二代である狩野山雪の手になる金地濃彩画の優品で、同じく京狩野の永良の手になる白梅群鶏図とともに、将来に計画されている「京狩野展」での活用が期待される。</li> <li>蹴鞠寿老図は平成17年に開催した「蕭白展」が契機となって新出した作品で、小品ながら、曾我蕭白のユーモラスな一面を見せる。</li> </ul>  <p style="text-align: center;">耕作図屏風 伝狩野元信筆 6曲1隻</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>耕作図屏風は「室町時代の狩野派」で初出品された作品で、狩野元信真筆の可能性を残す重要な作品である。</li> <li>王寅筆山水図押絵貼屏風は、清末の来泊画人と知られる王寅の三度目の在日時の制作になる大作で、日中の文化交流を語る資料としても重要である。</li> <li>「すゝか」奈良絵本改装絵巻は、坂上田村麻呂を主人公にした異類退治の物語で、鞍馬寺の毘沙門天や清水寺の観音など京都の寺院縁起との関連を持つ点で京都国立博物館にふさわしく、また同類他本に比して絵を豊富に含む点でも価値が高い。</li> <li>羅地刺繍釈迦阿弥陀二尊図は、染織史からも仏教美術史からも重要でありながら、京都国立博物館にはこれまで所蔵がなかった繡仏資料として初の収集品である。</li> <li>護摩爐壇形図像は、密教修法に際して整えられる護摩壇を図示したもので、京都の高山寺に伝来していたことが明らかな、鎌倉時代初頭の白描図像として貴重な作品である。</li> </ul>							
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	17	18	19	20
	収蔵品件数	6,417件	—	—	6,260件	6,320件	6,386件	6,417件
	うち国宝	27件	—	—	27件	27件	27件	27件
	うち重要文化財	177件	—	—	181件	181件	177件	177件
	購入件数	8件	—	—	19件	17件	36件	8件
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)							
中期計画 記載事項	体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。 (京都国立博物館) 京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。							
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。							

中項目	1 歴史・伝統文化の保存の継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
-----	---

事業名	(1)-1 適時・適切な収集											
担当者	担当部課	学芸部企画室	事業責任者	企画室長 稲本泰生								
実績・成果	彫刻部門1件(木造南無仏太子立像=1軀、鎌倉時代)、絵画部門1件(聖徳太子及び道慈律師像=2幅、室町時代)、書跡部門4件(額安寺大塔供養願文=1巻、鎌倉時代。大方広如来不思議境界経=1巻、平安時代。蘇磨呼童子請問経・卷下=1巻、平安時代。額安寺文書=5巻、鎌倉～南北朝時代)、金工部門1件(金銅独鈷杵=1口、鎌倉時代)以上計7件の文化財を購入し、新たな館蔵品とした。決算額は9千万円であった。											
補足事項	<p>① 彫刻部門の新規購入品は多くの遺品がある南無仏太子像の中でも古例に属し、かつ作行もすぐれ、平常展・企画展の構成に大きく貢献すると考えられる。</p> <p>② 彫刻以外の6件の旧所蔵者は、いずれも大和郡山市・額安寺である。今回の購入によって、奈良地方の文化財の巷間への流出・散佚を防止し、かつまとまった資料群としての一体性を保持しえたことは、「南都古社寺伝来の文化財の調査研究・収集・公開を行う機関」としての、当館が担うべき社会的責任に鑑みても、重大な意義を有する。</p> <p>③ 絵画部門の新規館蔵品は対幅をなすが、聖徳太子像はいわゆる「水鏡御影」の古例として、道慈律師像は奈良時代の高僧・道慈の現存唯一の肖像として、ともに非常に高い資料的価値を有しており、今後の展示構成を行う上で大きな意義をもつ。</p> <p>④ 書跡部門4件のうち額安寺大塔供養願文及び額安寺文書は額安寺の歴史に関わる重要な史料である。ことに前者は華麗な装飾が施され、二件の古写経とともに高い展示効果が期待できる。また工芸部門の1点も西大寺系の律僧・忍性に関わる伝承をもつ優品である。いずれも当館が特に力を入れている南都の仏教及び仏教美術の歴史に関する調査研究・展示活動の一層の充実を図る上で、大いに活用が可能な文化財である。</p>									絹本著色聖徳太子像		
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	17	18	19	20			
	収蔵品件数	1,805件	—	—		1,736	1,790	1,794	1,805			
	うち国宝	12件	—	—		12	12	12	12			
	うち重要文化財	100件	—	—		96	98	99	100			
	購入件数	7件	—	—		5	0	2	7			
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)											
中期計画 記載事項	体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。 (奈良国立博物館) 仏教美術を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。											
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。							

中項目		1 歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承										
事業名	(1)-1 適時・適切な収集											
担当者	担当部課	文化財課	事業責任者	資料登録室長 小林公治								
実績・成果	<p>・日本とアジア諸国との文化交流を中心とした文化財を収集する当館の設置目的に則し、且つ国民共有の貴重な財産として長く後世へ伝えられるべき優れた作品30件を購入した。</p> <p>(うち重要文化財1件)</p> <p>内訳：絵画6件 書跡7件 彫刻1件 陶磁1件 漆工2件 染織7件 考古4件 歴史資料2件</p> <p>決算額 5億7,148万円</p>											
補足事項	<p>・絵画分野の購入品は、朝鮮時代16世紀山水画、室町時代狩野派絵画であり、それぞれ当館の代表的所蔵品として活用が期待される。</p> <p>・書跡分野購入品は南北朝時代高僧の墨蹟として貴重かつ重要文化財に指定された名品であり、中国との文化交流を語る歴史資料としても活用できる。</p> <p>・彫刻分野購入品は朝鮮半島新羅時代の特徴をよく示す如来立像であり、東アジアの古代金銅仏の一として活用できる。</p> <p>・陶磁は柿右衛門様式の色絵磁器置物であり、希少且つ優品である。</p> <p>・漆工分野の購入品は中国南宋時代の堆朱および高台寺様式の蒔絵の優れた作品である。</p> <p>・染織分野購入品3件は、いずれも琉球の紅型で、当館では初めての購入品として今後の活用が期待できる。</p> <p>・歴史資料分野の購入品は、ほとんど購入の機会のないベトナムの村落関係文書類一括である。日本でも希有の収蔵品として今後の研究や活用が期待される。</p>									<p>重要文化財 「孤峯覺明墨蹟与保樹大姉法語」</p>		
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	17	18	19	20			
	収蔵品件数	370件	—			237	281	333	370			
	うち国宝	3件	—			3	3	3	3			
	うち重要文化財 購入件数	25件 30件	—			21 9	23 26	24 42	25 30			
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)											
中期計画 記載事項	日本とアジア諸国との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。											
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			順調に成果を上げている。									

中項目	1 歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
-----	---

事業名	(1)－2 寄贈・寄託品の受入と活用								
担当者	担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	列品管理課長 谷 豊信					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の寄贈は81件に上った。</li> <li>・新規寄託は38件(内、重文2件)。</li> <li>・寄託減は31件(内、重文5件)であった。内、当館に寄贈となったものが2件、当館が購入したもの2件(内、重文2件)、九州国立博物館への寄託変更2件(内、重文1件)、所蔵者による取り下げが25件(内、重文4件)であった。その結果、寄託総数は2,750件(国宝53件、重文260件)となった。</li> <li>・登録美術品については、増減がなかった。</li> </ul>								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財のご寄贈は、所有者の意思によるものであり、毎年、ご寄贈のお申し出があることは、文化財保存のため当館が努力していることが高く評価されていることの表れと考えられる。</li> <li>・個人収集家・社寺などに働きかけた結果、38件の新規寄託があり、平常展と研究の充実をはかることができた。寄託減も31件あるが、所蔵者の経済的事情によると思われる取り下げのほかにも、当館への寄贈、当館の購入もあり、また寄託先を地元の博物館等に変更する動きなどもあり、理由は単純ではない。</li> <li>・寄託品の数と質を維持していくために、今後も所蔵者に寄託を働きかける必要がある。</li> <li>・登録美術品制度は、個人所有の文化財の公開促進のため文化庁が推奨している制度であり、今後も文化庁と連携をとりつつ適切な運用を図る。</li> </ul>				 <p>新規寄託品 重要文化財 刀 金象嵌銘 来国次 本阿(花押)</p>				
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	17	18	19	20
	寄贈品件数	81件	—	—		144	71	26	81
	寄託品件数 うち新規寄託 品件数	2,750件 38件	2,400件	A		2,718	2,773	2,743	2,750
	登録美術品件数	3件	—	—		376	94	17	38
登録美術品件数		3件	—	—		3	3	3	
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				

中項目	1 歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
-----	---

事業名	(1)－2 寄贈・寄託品の受入と活用								
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長 若杉準治					
実績・成果	<p>(寄贈)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度、寄贈は21件で、寄贈者は8人であった。 内訳 絵画5件 陶磁1件 漆工9件 染織4件 考古2件</li> </ul> <p>(寄託)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度の新規寄託は111件。建替工事中のため平常展示での活用はできないが、例年通りの数があり、研究資料として、また特別展覧会での活用が見込まれる。 内訳 絵画42件 書跡9件 彫刻3件 陶磁25件 漆工14件 染織4件 考古10件 金工4件</li> </ul>								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>寄贈では、実業家で歌人としても知られる川田順氏の収集品を子孫の川田泉氏より絵画、人形をご寄贈いただき、また京都の伝統工芸、漆工の工房の関係者である西村要象氏の収集品から絵画、漆工の寄贈があった。</li> <li>寄託では、妙心寺方丈の襖絵102面の一括寄託があり、春の妙心寺展で早速活用した。</li> <li>春に開催した「河鍋暁斎」展の出品作品及び関係資料2件の寄託もあり、特別展覧会が寄託品の充実に寄与した例として特筆される。</li> <li>また染織で、檀王法林寺から繡仏3点の寄託があり、初の館蔵品となった購入の繡仏の研究資料として、また計画中の浄土教関係の特別展覧会への活用が期待される。</li> <li>寄託品の返却件数 120件</li> </ul>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	新規寄贈品件数	21件	－	－		6	42	30	21
	寄託品件数	6,145件	6,000件	A		6,197	6,179	6,154	6,145
	うち新規寄託品件数	111件	－	－	－	104	117	111	
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				



薄蒔絵文庫

中項目	1 歴史・伝統文化の保存の継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(1)－2 寄贈・寄託品の受入と活用								
担当者	担当部 課	学芸部企画室	事業責任 者	企画室長 稲本泰生					
実績・成果	寄贈については、書跡部門において3名の所蔵者から計4件の受け入れを行った。寄託については新規に15件（うち重要文化財2件）の受け入れを行い、総数は2,067件を数えるに至った。								
補足事項	<p>① 質の高い書跡4点の寄贈を受け、館蔵品を充実させることができた。うち佑賢和歌懐紙（春日懐紙）、春日版板木（顕揚聖教論卷第十一）、東大寺中興縁起の3件は南都に開花した宗教文化の貴重な史料であり、奈良に立地する当館の蔵品に相応しい。また、6字河臨法も、非常に興味深い内容を含む修法次第の貴重な写本であり、仏教美術を支柱とする当館の展示に広く活用できる品である。なお、寄託品については、23件（国宝5件、重文4件含む）を寄託者に返却した。</p> <p>② 特別展「天馬－シルクロードを翔ける夢の馬」に際して借用した鎌倉時代絵画の名品、観音経絵（石川・本土寺蔵、重要文化財）及び熊野垂迹神曼荼羅（滋賀・錦織寺蔵）を寄託品に加えることができたことは、特別展を契機に強化された所蔵者との信頼関係が、寄託品の増加につながった好例として特筆される。</p> <p>③ 鎌倉時代の大仏殿様四天王像の新出資料で、鮮やかな彩色がのこる現光寺四天王像を平常展で公開するなど、前年度に新規寄託を受けた文化財を積極的に活用し、当館の展示内容を充実させることができた。</p>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	17	18	19	20
	新規寄贈品件数	4件 2,067件	— 2,060	— A		4 1,951	54 1,957	2 2,057	4 2,067
	寄託品件数 うち新規寄託品件数	15件	—	—		15	38	113	15
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調に成果を上げている。					



本土寺蔵 絹本着色観音経絵

中項目	1 歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
-----	---

事業名	(1)-2 寄贈・寄託品の受入と活用								
担当者	担当部課	文化財課	事業責任者	資料登録室長 小林公治					
実績・成果	<p>寄贈7件（重要美術品1件2点） （内訳 刀剣2件、陶磁1件、考古4件） 分野としては上記3分野にわたる寄贈がある。考古遺物は日本国内九州の出土品のほか、古く海外で出土し重要美術品に指定されていたものがある。また江戸時代に欧米に向けて輸出された陶磁器など、優れた文化財の寄贈を受けた。</p> <p>新規寄託46件 （内訳 彫刻2件、書跡2件、陶磁6件、染織4件、考古32件） 5分野にわたる寄託を受けた。このうち彫刻は対馬に長く伝世された朝鮮渡来の仏像2体や、北部九州で出土したとされる、まとまった経筒類の寄託を受けるなど、今後の活用が大いに期待される充実した内容となった。</p>								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>寄贈品のうち刀剣類については、室町時代長船派初代康永の作品を含む中近世を中心としたコレクションの一括寄贈であり、今後の活用が期待できる。</li> <li>陶磁器の寄贈品は、有田で近世に製作された大形の輸出用有蓋壺で、里帰り品であり、当館の目的とも合致した優品である。</li> <li>考古寄贈品は、戦前より重要な楽浪遺物として紹介され、また重要美術品として指定されていた2件や日本国内外の出土遺物であり、今後の活用が期待できる。</li> </ul>								
<ul style="list-style-type: none"> <li>寄託品のうち、書跡はいずれも九州に縁の深い江戸時代人物のものであり、展示等に活用が期待される。</li> <li>陶磁類は、西アジアの古代ガラス瓶などであり、当館でより充実した交流史展示への活用が期待できる。</li> <li>考古遺物は、北部九州出土の経筒類や中世の中国・高麗鏡などであり、まとまった資料として活用できる。</li> <li>染織は、琉球などを中心としたもので、活用が期待される。</li> </ul>									
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	17	18	19	20
	寄贈品件数	7件	—	—		19	6	10	7
	寄託品件数	1,105件	350件	A		404	1,506	1,091	1,105
	うち新規寄託品件数	46件	—	—	404		214	46	
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調に成果を上げている。					

中項目	1 歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(2) 適切な管理・保存 (1/2)								
担当者	担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	列品管理課長 谷 豊信					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・列品とすべき歴史資料と和書の整理・登録作業を行なった。</li> <li>・本年度から RFID・バーコード等を利用して収蔵品の所在情報を電子的に記録するシステムの開発を始めた。</li> <li>・列品管理に万全を期すため、列品情報整備事業を今年度から開始した（平成 25 年度まで継続の予定）。</li> <li>・来年度から東洋館の耐震補強工事が実施されることになったため、東洋館の収蔵品を避難するため準備作業を行った。</li> </ul>								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度は歴史資料 326 件を列品に登録した。</li> <li>・所在情報記録システムの実証実験は、東洋漆工分野の全列品 500 余件を対象に実施した。小規模ではあったが、RFID・バーコード等を使用することによって、簡便な操作によって収蔵品の所在を確実に記録することができることを確認した。</li> </ul>								
	RFID タグによる収蔵品所在確認の実証実験								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	17	18	19	20
	—	—	—	—					
年度実績評価総括	S <b>(A)</b> B C F (S、F の理由)								
中期計画記載事項	国民共有の財産である文化財を永く次世代へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				

中項目	1 歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
-----	---

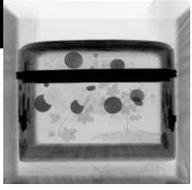
事業名	(2) 適切な管理・保存 (2/2)								
担当者	担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	保存修復課長 神庭信幸					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収蔵庫及び展示室など 346 地点の温湿度を計測し、環境の評価及び処置を実施した。空気環境に関しては、収蔵庫及び外気など 33 地点におけるアルデヒド類及び有機酸類などを計測した。環境評価に基づき、除加湿器の設置、フィルターの交換などの措置を講じた。</li> <li>・収蔵庫など 479 地点における生物生息状況を冬季と夏季の 2 回にわたり調査した。また、ゴキブリなどの生活害虫を防除するため、夏季に防虫薬剤を全館に設置した。</li> <li>・展示場及び収蔵庫における地震対策として、特にガラス器や土器などの考古遺物の展示固定方法について検討を加え、転倒による破損を防ぎ、かつ外観を損なわない展示支持具の製作を行った。</li> <li>・本格修理のための列品調査、対症修理の実施、列品貸与の点検として合計 2,693 件の保存カルテを作成した。</li> <li>・収蔵庫、展示室など 178 箇所の温湿度に関し、その状態から 3 段階に環境を分類（クラスⅠ、Ⅱ、要注意）した平成 19 年次報告書を作成した。</li> <li>・列品の貸与・返却及び借用の際に、輸送中の梱包ケース内とトラックなどの輸送機材に発生する振動・衝撃に関し、国内外合わせの計 11 件（薬師寺展、クレムリン博物館貸与品）の輸送を調査した。</li> </ul>								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・列品の輸送中の振動衝撃に関する調査では、飛行場内におけるドリー牽引時の振動・衝撃が大きいが明らかになり、それについて具体的な対応を検討する時期に来ている。</li> </ul>								
									
	ドリーによる梱包ケースの牽引								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	保存カルテ	2,693	500	—		918	1,392	1,725	2,693
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、F の理由)								
中期計画記載事項									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調に成果を上げている。					

中項目	1 歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
-----	---

事業名	(2) 適切な管理・保存								
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長 若杉準治					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平常展示館の建て替えに伴い、同館内収蔵庫から館蔵品、寄託品のすべてを東収蔵庫等に移動した。</li> <li>・展示室及び収蔵庫における適正な温湿度管理を行った。</li> <li>・特別展示館耐震診断業務の結果報告を行った。</li> <li>・半年ごとに実施している寄託品の期間継続にともなう点検を着実に実施した。</li> <li>・館蔵品に係る保存カルテを作成した。 実績 174件</li> </ul>								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空調設備機器については予防的なメンテナンスときめ細かな運転監視を行い、展示室及び収蔵庫の温湿度環境の適正管理を行っている。</li> <li>・将来構想検討委員会において、特別展示館耐震診断業務の結果報告がなされた。これを受け、引き続き建設事業小委員会において耐震補強の工法、方針等を検討することとなった。</li> <li>・館蔵品の保存カルテについて、目標以上に作成でき、館蔵品の保存状況についての情報蓄積が進んだ。</li> </ul>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	保存カルテ作成件数	174件	100件程度	A		91件	96件	140件	174件
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(2)適切な管理・保存								
担当者	担当部課	学芸部 保存修理指導室	事業責任者	上席研究員 鈴木喜博					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・館内の文化財害虫生息状況を把握するため、文化財の保管および展示にかかわる個所を中心に防虫トラップを定期的に設置して回収した。昨年度の11月から始めており、1年余りの調査結果を蓄積した。</li> <li>・展示室および展示ケース内の温湿度の管理を図るため、無線ランによるリアルタイムの温湿度管理システムの構築を図り、春の「天馬展」、夏の「法隆寺展」で実験的に実施し、「西国三十三所展」で本格的に実施した。「正倉院展」ではさらに内容を深めたシステムを構築した。これによって、かかる温湿度管理については科学的判断のもとで即応することが可能になった。</li> </ul>								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防虫トラップは昨年度と同様に、展示室収蔵庫文化財修理所等150箇所を設置し、1か月ごとに回収したものを外部業者に調査委託した。3年間のデータの蓄積が必要とされており、引き続き実施する予定である。</li> <li>・無線ランによる温湿度管理システムは引き続き、後半の特別陳列でも構築して実施した。</li> <li>・また以前からの毛髪計およびデータログの温湿度計も引き続き使用し、計測機器の正確度を高めた。</li> </ul>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	保存カルテ作成件数	108件	100件	A		104	102	103	108
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				

中項目	1 歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
-----	---

事業名	(2) 適切な管理・保存											
担当者	担当部課	博物館科学課	事業責任者	環境保全室長 今津 節生								
実績・成果	<p>①収蔵庫・展示室等 250 ヶ所に粘着トラップを設置し定期的モニタリングを実施し害虫侵入箇所と館内の害虫の生息状況を早期発見対処した。文化財搬入に際し、殺虫殺菌処理を実施した。ボランティア活動との連携により IPM 活動の普及に努めた。</p> <p>②常設展示室 70 箇所、特別展示室 30 箇所に温湿度計を設置して、環境データを解析した。</p> <p>③展示品を中心に、X線CT スキャナや三次元計測装置を用いて保存状況と構造調査を実施した。測定結果は予防的保存に役立てると共に展示に反映した。</p> <p>④保存カルテ 文化交流展示室の露出展示資料や寄贈資料および修理資料を中心に 289 件を作成した。</p> <p>⑤収蔵庫 26 箇所に温湿度計を設置して環境データを解析した。また、空気質を調査して館内汚染物質の軽減を図り、収蔵環境の改善を行った。</p>											
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民協同型 IPM 活動に関する科学研究費により、ボランティア活動へのさらなる指導支援をすすめることができた。</li> <li>環境データを解析しながら外気の変化に合わせて微調整することで、極めて安定した展示環境を維持することができた。その結果、<math>\pm 1^{\circ}\text{C}</math>、<math>\pm 5\% \text{RH}</math> の展示環境を達成した。</li> <li>収蔵庫環境は外気の変化に合わせて微調整することで、<math>\pm 1^{\circ}\text{C}</math>、<math>\pm 2\% \text{RH}</math> の安定した保存環境を達成した。</li> <li>展示品・収蔵品を中心に X線 CT スキャナや三次元計測装置による調査を実施し、研究成果を当館紀要に公表すると共に、菊蒔絵手箱のように展示に反映した。</li> <li>開館 4 年目で展示・収蔵環境をより安定させることができた。今後は安定化を維持したままで、より一層の効率化を図りながらエネルギーの削減に寄与したい。</li> </ul>						 			<p>X線 CT スキャナを用いた 菊蒔絵手箱の調査</p>		
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	17	18	19	20			
	保存カルテ作成件数	289 件	200 件	A		500	205	252	289			
	CT スキャン調査	40 件	—	—		—	3	35	40			
	三次元計測	42 件	—	—		—	5	20	42			
	殺虫殺菌処置	6 件	—	—		12	2	5	6			
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、F の理由)											
中期計画記載事項	国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、展示場、収蔵庫の劣化に対応するとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。											
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。							

中項目	1 歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
-----	---

事業名	(3) 計画的な修理								
担当者	担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	保存修復課長 神庭信幸					
実績・成果	<p>1) 修理計画立案に向けて、修理候補作品の選定のために新たに指定・未指定合わせて 563 件の作品の調査を実施した。これまで調査を終えたものと合わせ約 2000 件の作品が今後の修理計画に反映される。調査には必要に応じ X 線透過撮影、光学実体顕微鏡なども使用した。指定品については、国宝絵画 1 件について具体的な修理計画の策定を開始し、修理方針案の作成を行った。</p> <p>2) 作品の応急（対症）修理を 690 件実施。本格修理を 75 件実施した。</p> <p>3) データベース構築のために 19 年度本格修理 101 件の修理内容についてデジタル化を実施した。18 年度に実施した本格修理に関して、東京国立博物館文化財修理報告書Ⅸを刊行した。</p>								
補足事項	<p>1) 絵画、書跡などの本紙あるいは敷き紙などについて、植物繊維の同定を 38 件実施し、本紙の保存に関して検討を行った。</p> <p>2) 修理前あるいは修理中に実施した科学的調査は、K-25674 盆、A-11776 両界曼荼羅、A-10601 一字金輪像、J-36697 埴輪 挂甲武装男子など 25 件である。</p> <p>3) X 線透過撮影を従来のフィルムを使用した湿式方法からデジタルフラットパネルを利用しデジタル化を図った。</p>								
									
	フラットパネルを使用したデジタル X 線装置								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	本格修理件数	75	70	A	経年変化	144	97	101	75
	保存修復関係資料（前年度修理実施分）のデータベース化	101	—	—		136	144	97	101
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、F の理由)								
中期計画記載事項	国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、展示場、収蔵庫の劣化に対応するとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				

中項目 1 歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

事業名	(3) 計画的な修理								
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長 若杉準治					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年の収集品（特に寄贈品）を中心に、展示、研究等に活用できることを期して修理を行った。</li> <li>・収蔵庫の移転にともない、移動及び今後の管理等における損傷を未然に防ぐための修理を行った。</li> <li>・修理に関して契約方法等の見直しを行い、業者選定の公平性、透明性を高める努力を行った。</li> </ul> <p>実績 絵画13件 書跡1件 彫刻1件 染織2件</p>								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寄贈を受けた後、計画的に修理を実施している須磨コレクションの中国絵画のうち、今年度は10件を修理し、未表装のものや大破のため公開困難で、緊急性の高い作品の修理が一段落した。</li> <li>・近世から続く京都の商家に伝来した襖絵を修理し、大破のため公開困難であった作品の公開が可能になった。</li> </ul>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	収蔵品修理件数	17件	10件程度	A		16	11	15	17
	文化財保存修理所修復資料のデータベース化	686件	250件程度	A		2,183	2,870	2,377	686
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	修理、保存処理を要する収蔵品等については、機構の保存科学・修復技術担当者が連携し、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を取り入れ、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。								

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(3)計画的な修理								
担当者	担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	上席研究員 鈴木喜博					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>国民共有の財産として長く後世へ伝えるため、館蔵品のうちの6件の修理に着手し、あるいは竣工した。計8件。              内訳 彫刻1件、絵画2件（重要文化財 2カ年継続事業 第1年度）、染織1件、書跡1件（重要文化財 2カ年継続事業 第1年度）、考古資料3件。</li> </ul>								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>なお国宝刺繍釈迦如來說法図（勸修寺伝来）の修理については、文化庁美術学芸課と協議後、当館として独自に装こう師連盟の修理技術者を招聘し、当館学芸員と一緒に損傷状況を確認した。あわせて、修理に臨む姿勢を協議し、以下のことを確認した。まず応急修理を行い、次に予算的処置が整った段階で本修理を考えていく。その間、当館で修理検討委員会を開催し、染織関係の有識者を招聘し、本図の修理についての助言を仰ぐこととした。開催は来年度前半を考え、その後に応急修理を実施する計画を確認した。</li> </ul>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	修理件数	8件	4件	A		8	4	10	8
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	修理、保存処理を要する収蔵品等については、機構の保存科学・修復技術担当者が連携し、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を取り入れ、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			順調に成果を上げている。						

中項目	1 歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
-----	---

事業名	(3) 計画的な修理								
担当者	担当部課	博物館科学課	事業責任者	保存修復室長 藤田 励夫					
実績・成果	<p>① 館蔵品を中心に、展示や損傷の程度を勘案して、緊急性の高い文化財 25 件を修理した。</p> <p>② 館蔵品および九州をはじめとする館外の文化財修理のため、当館の保存修復諸施設を積極的に活用した。(15 件)</p> <p>③ 表具用裂などの修理材料収集を行い、実際の修理に役立てるとともに、資料として保存を計った。</p> <p>④ 修理指針の検討のため、各分野の担当研究員とともに修理経過をみながら検討を重ねた。</p> <p>⑤ 修理指針の検討のための調査について、紙繊維の分析、絵画彩色の蛍光 X 線分析や顕微鏡観察による調査、X 線、CT スキャンを活用した調査を実施した。</p> <p>⑥ カビなどの生物被害について、顕微鏡観察やサンプルの培養などを行った。</p>								
補足事項	<p>① 館費による修理件数 25 件(絵画 8、書跡 1、彫刻 2、建築 1、漆工 2、考古 10、歴史資料 1)</p> <p>② 修復施設 1～3 と 4 (12～3 月)では、館所蔵品のほか国宝修理装演師連盟が重要文化財・京都国立博物館所蔵旧円満院宸殿障壁画や福岡県指定・高良大社所蔵祭神縁起など 21 件を、4 (6～10 月)では(財)美術院が重要文化財・真木大堂所蔵木造大威徳明王像など 6 件の修理を実施した。5 では(株)芸匠が 11 件、6 では輪島口工芸社が 2 件の館所蔵品等の修理を実施した。(40 件)</p> <p>③ 収集した表具裂は表具の取り合わせにも活用した。また、伝統的な材料の資料として保存、公開、修理への利用等に資した。</p> <p>④・⑤ 修理技術者により技術的な判断に加えて、絵画、書跡、漆工、彫刻、考古などの各専門分野を持つ研究員や最新分析機器を駆使した文化財科学専門の研究員と共同して、最善の修理を行うことができた。</p> <p>⑥ 生物被害への対応策を検討するため、カビや虫についての調査を充実させた。</p>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	修理件数(館費)	25 件	15	S		31	10	22	25
	修復施設の活用(補助事業等)	15 件	—	—				8	15
	科学的調査	10 件	—	—				10	10
年度実績評価総括	<p>㊟ A B C F (S、F の理由) 整備した修復施設を最大限に活用することができた。</p>								
中期計画記載事項	<p>修理、保存処理を要する収蔵品等については、機構の保存科学・修復技術担当者が連携し、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を取り入れ、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。</p>								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調に成果を上げている。					



祭神縁起・社寺大観図(高良大社蔵)